

1.単元の目標と単元構成

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの県と市の地理的位置，及び47都道府県の名称と位置を，地図を使って意欲的にまとめることができるようにする。また，自分たちの県の地形・主な産業などの様子や，県内の特色ある地域の人々の生活の様子を，関心をもって調べることができるようにする。 ・自分たちの県全体の地形や主な産業の概要，交通網の様子や主な都市の位置から県の特色を考えさせたり，自然環境及び伝統や文化の面から見て特色ある県内の地域を取り上げ，まちや人々の生活の特色を考えさせたりする。 ・各種の地図及びその他の資料から，47都道府県と県内の特色ある地域の位置や様子を調べさせる。また，方位による位置関係や，調べてわかったこと，考えたことを，白地図なども活用して表現させる。 ・自分たちの県と市の地理的位置，47都道府県の名称と位置をとらえさせる。また，地形や主な産業などから見た県の特色，県内の特色ある地域とそこで生活する人々の様子，自分たちの県の産業や人々の生活と国内の他地域や外国とのかかわりについて理解させる。
--------	---

オリエンテーション (2時間)	1 県の地図を広げて (7時間)	2 焼き物を生かしたまちづくり (9時間)	3 クリークを生かしたまちづくり (7時間)	4 世界とつながるまちづくり (4時間)
①②わたしたちの県の位置と日本の都道府県を調べよう	①県の地図を見てみよう ②③地図で見る土地の高さ(地形図づくり) ④農業のさかんな地いき ⑤漁業のさかんな地いき ⑥工業のさかんな地いき ⑦県の交通の様子	①特産物や観光で知られる地いき ②たくさんの人が来るわけは… ③小石原焼伝統産業会館へ行こう ④焼き物づくりにちようせん ⑤小石原焼ができるまで ⑥よい焼き物をつくるために ⑦変わっていく小石原焼 ⑧山のしゃ面を生かして ⑨生き生きとした東峰村をめざして	①柳川市のまちづくりを調べよう ②柳川市の土地の使い方を調べよう ③クリークのひみつをさぐる ④クリークよ，よみがえれ ⑤クリークと農家の人たち ⑥クリークと柳川市の人たちの仕事 ⑦柳川市のこれからのまちづくり	①縮尺のちがう地図を見くらべて ②多くの国や地いきとつながる福岡市 ③福岡市と空でつながる国や地いき ④福岡市と海でつながる国や地いき まとめ(2時間) ①②県のしょうかいパンフレットをつくらう

2. 指導計画作成上の工夫と留意点

(1) 学習内容に即した地図指導の充実

学習内容から地図を多用することになる本単元では、学習の目的に応じた地図を選び、必要な情報を的確に読み取っていく過程で、地図の表現方法や仕組みにも気づかせるようにしたい。

全国の都道府県を取り上げる学習では、地形や市町村が盛り込まれた一般的な日本全図の掛け図だけでなく、掲示できる都道府県の白地図なども用意し、子どもたちが地図帳で調べた県名と県庁所在地などを随時書き込みながら授業を進める。都道府県の位置関係を方位を使って示したり、各県について調べてわかったことを追記したりする場合などにも、掲示用の白地図は便利に活用できる。子どもたちが白地図で作業することを考えれば、そのモデルやサンプルとなるものがいつでも見えるようになっていなければならない。

また、立体地形図などがある学校では、日本や自分たちの県を概観する際などに利用し、地形を実感的に捉えられるようにすることが重要である。立体地形図がない時には、ランドサットから撮影された写真を活用することも考えたい。立体地形図や衛星写真から実際の地表の高低を把握し、平面に表された地図で、それがどのように表されているかを確認することは、地図の仕組みを理解していく上で大切な経験となる。同様に縮尺を理解させるには、まち探検等の経験を生かすと共に、地図と実際の様子を写した写真とを比較することで、距離を縮めて紙面上に表す仕組みに着目させるようにすべきである。

(2) 読図と描図を結びつけた指導

地図を活用する能力は、読む活動と描く活動の両面から育成される。自分たちの県の地形や産業の概要、交通網の様子や主な都市の位置に関する学習は、県の地図を読み取りつつ、わかったことを主題図に再構成するという点で、読図と描図が密接に結びつき、地図の活用能力を培うよい機会となる。さらに、グループごとに作成した図からわかったことを発表し、学級全体で地形図や各主題図を見比べながら県の特徴を

考える過程では、目的に応じた地図の多様な使い方を無理なく習得することが期待できる。

(3) 特色ある地域の学習のねらいと事例地の選択

県内の特色ある地域の学習では、県（都、道、府）内で自然環境、伝統・文化などの資源を保護・活用している地域の人々の生活の様子を調べ、いずれの地域でも特色を生かした生活や仕事の工夫がされていることに気づき、そこに見られるよさや特色を具体的に考えられるようにすることをねらいとしている。加えて、そうした学習の過程で、特色ある地域の産業や人々の生活が、国内の他地域や外国とかかわっていることに気づかせるのもねらいとなる。

ここで取り上げるのは、伝統的な地場産業の盛んな地域のほかに、森林や河川などの豊かな自然を守ったり、歴史ある街並みや祭りなどの伝統や文化を保護・活用したりして、特色あるまちづくりや産業の発展に努めている地域とし、特色が重複しないように選択する。この時、伝統的な工業など地場産業の盛んな地域は、必ず取り上げることになっている点に留意する。

県内の地域を選定するに当たっては、各地域の情報を多角的に収集し、その特色を把握すると共に、自地域とも比較しながら県全体の特色が捉えられるように、自然環境、伝統や文化、産業などの面で異なる地域を選び出すことが期待される。なお、学習指導要領の改訂により、土地の高低といった地形条件から地域の選定を行うことはなくなった点に留意したい。

(4) 体験的な調べ活動の設定

他地域を調べる際には、文章教材や写真の読み取りに終始してしまうことが多い。調べる地域で調査・見学をしたり、作陶のような体験活動をしたりするのが望ましいが、それが難しい場合には、その土地で働き、暮らす人々から電話等で話を聞く、あるいは疑問についてメールやVTRでやりとりをするといった体験的な調べ活動を展開したい。他地域の人々と交流するためには、教師が事前にそうした人々との関係づくりを行う必要がある。各地域の特色を生

かした生活や仕事の工夫が、子どもにとって具体的になるよう計画的・継続的な人間関係づくりが期待される。

(5) 国内他地域や外国との多様なかかわり

例示した单元では、陶器市に県外から集まる人々や柳川市を訪れる観光客といった人の動きを通して、他の地域とのかかわりに気づかせるようになっているが、取り上

げる地域の特色によっては、より多様なかかわりが予想される。例えば地場産業については原材料・製品や技術・担い手の移動、交通については航路・鉄道・道路の広がり、また伝統や文化については交流史及び交流活動、看板等に見られる言語、在留住民などもかかわりを調べる対象となり得る。

3. 展開例

オリエンテーション・わたしたちの県の位置と日本の都道府県を調べよう (2時間)

小単元の目標 自分たちの県の地理的位置、及び都道府県の名称と位置を、地図を使って意欲的に調べ、方位を使って位置関係を説明したり、各種の資料からわかった都道府県の様子・特徴などを白地図にまとめたりして、日本が47都道府県から構成されていることを知り、それぞれの名称と位置を日本地図で指摘することができるようにする。

過程	ねらい	主な学習活動と内容	□留意点 ●学習資料 < >評価
つかむ	<p>○福岡県の地理的位置を、方位も使いながら表現することができる。 (1 / 3)</p>	<p>○日本地図を見て、自分たちの県の位置について気づいたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡県は、佐賀県の隣にある ・福岡県は、海に面している ・福岡県は、日本の西の方にある ・福岡県は、熊本県の北にあるということもできる 	<p>●日本全図(掛け図)</p> <p>□黒板に掲示した日本全図を使いながら、福岡県の位置を自由に発表させ、その後子どもから出された方位に着目して、位置関係を示すようにする。 <自分たちの県の位置を、方位を使って示している>【技】</p>
調べる	<p>○日本が47の都道府県で構成されていることやそれらの名称がわかる。 (1 / 3)</p>	<p>○日本の都道府県区分図を見て、都道府県の数や名称を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本には47の都道府県がある ・都道府県の名称を確認し、名前を知っているところに印をつける 	<p>●都道府県の区分図(掲示用と個人用の両方を用意)</p> <p>□区分図で都道府県の数を確認したあと、知っている都道府県に印をつけるようにする。この過程で各都道府県の形や大きさも確認させておく。</p>

○都道府県の位置や相互の位置関係を示すことができる。

(1 / 3)

○白地図に47都道府県の名称とその様子や特徴を記入することができる。

(1)

○自分たちの県と他の都道府県の位置関係や、日本全体における各都道府県の位置及び相互の位置関係を示す。

- ・福岡県から見ると東京都は、東の方にある
- ・北海道は、一番北の方にある
- ・このまえ家族で行った広島県は、島根県の南にある

○自県以外で行ったことのある場所や知っている場所がある都道府県を地図で調べ、気がついたことを白地図にまとめる。

- ・北海道は都道府県の中で面積が一番大きい
- ・高知県は四国の南側にある
- ・新潟県は、恐竜のような形をしている

○白地図に記入した都道府県名や気づいたことを発表し合い、誰も調べていないところを手分けして調べ、白地図を完成させる。

- ・京都府の京都市には、お寺がたくさんある
- ・讃岐うどんが有名な県は、どこでしょうか

●都道府県の区分図(同上)

□先に印をつけた都道府県を取り上げ、自分たちの県との位置関係や、日本全体における位置、都道府県相互の位置関係を発表させる。また、北海道、本州、四国、九州といった大きな島にも着目させる。<地図を使って都道府県の名称とその位置を示している>

【技】

●地図帳、都道府県の白地図(掲示用・個人用)

□数名に行ったことのある場所等を発表させ、その場所がある都道府県を地図で探すようにする。この時、地図帳の索引の使い方を指導する。

□調べた県の名称や形、気づいたことなどを白地図に記入し着色する。

●地図帳、都道府県の白地図(同上)

□各自が調べた県名等は、掲示用の白地図に記入し、ブランクの部分を担当して調べるようにする。

□完成した地図を使い、教師が都道府県名を当てるクイズを出す。可能ならば子どもたちにも、クイズに挑戦させるようにしたい。

<47都道府県の名称と位置を日本地図を使って示している> 【技】

1 焼き物を生かしたまちづくり（9時間）

小単元の目標 県外にも知られた小石原焼が作られている東峰村に関心を持ち、地域の自然環境と作り手の努力によって江戸時代から続いてきた焼き物づくりの様子や、村の人々の仕事と生活の様子を地図などの資料で調べることを通して、地場産業と自然環境の面から東峰村の特色について考え、他地域とのかかわりや村の特色を生かしたまちづくりについて理解することができるようにする。

過程	ねらい	主な学習活動と内容	□留意点 ●学習資料 < >評価
つかむ	<p>○調べてみたい県内の特色ある地域を決め、学習の計画を立てる。</p> <p>(1)</p>	<p>○福岡県内での、特産物や観光で知られる地域を簡単なポスターを作って発表し、各地域の様子を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんこ船からきれいなまちが見える柳川市を調べよう ・柳川市の様子：たくさんのクリークと昔の建物が残っている <p>○各地の様子を見比べながら調べる地域を決め、学習の計画を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べる地域とその順序 ・調べたいことがら（観点） 	<p>□福岡県全体の様子を概観した前小単元の最後に、これから調べたい地域の資料を集めるよう指示しておく。</p> <p>●福岡県の掲示用の地図と白地図</p> <p>□各地域の位置は地図で確かめ、様子については、ポスターや資料で確認するようにしたい。</p> <p>●作成したポスターと県の地図</p> <p>□上記の地域の様子から、地場産業の発展、自然の保護または伝統や文化の保護・活用といった特色が重ならないように調べる地域を選択する。</p> <p><特色ある地域について、調べる計画を意欲的に立てようとしている>【関・意・態】</p>
調べる	<p>○小石原焼の人気の秘密を知り、小石原焼とその生産地である東峰村に関心をもつ。</p> <p>(1)</p> <p>○東峰村の土地の様子と、小石原焼の歴史及び発展の理由がわかる。</p> <p>(1)</p>	<p>○民陶むら祭の様子と小石原焼の特徴を調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東峰村で毎年行われている民陶むら祭には、小石原焼を買うためにたくさんの人がやってくる <p>○東峰村の様子と小石原焼が広く知られるようになったわけを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東峰村の地形や様子 ・小石原焼の始まりと発展 ・小石原焼が発展した理由 	<p>●民陶むら祭と小石原焼の写真</p> <p>□小石原焼が人々に好まれている理由を理解させ、この焼き物づくりが行われている東峰村への関心を高めるようにする。</p> <p>●東峰村の地形図、小石原焼についての年表</p> <p>□小石原焼が作られている東峰村の様子を確かめたあと、どのように小石原焼が発展してきたのかを調べるようにする。</p>

○小石原焼の作り方と作り手に求められる技術がわかる。

(2)

○よい焼き物を作るために作り手が行っている工夫と、小石原焼が地域の自然環境と結びついていることがわかり、今も多くの人に好まれる理由を考える。

(2)

○東峰村の人々が地域の自然環境を生かした生活をしていることがわかる。

(1)

○東峰村をよりよくするために、村の人々が地域の特色を生かした取り組みをしていることに気づき、まちづくりの進め方について考える。

(1)

○小石原焼についての疑問を話し合い、焼き物ができるまでの工程を調べる。

- ・疑問：作り方，原材料，工夫
- ・工程：形成→模様入れ→焼成

○多くの人に好まれる美しい小石原焼を作るために、作り手がどのような工夫をしているのかを調べる。

- ・陶土づくりの様子
- ・原材料や燃料の産地
- ・模様に入れ方
- ・小石原焼の伝統と社会の変化に応じた多様性

○東峰村の土地の様子を確かめて、そこで生活する人々がどのような仕事をしているのかを調べる。

- ・東峰村の土地の様子
- ・棚田での米づくりの様子
- ・山の斜面を生かした梨などの果樹栽培の様子

○「道の駅」や村の紹介番組づくりの様子等を調べ、東峰村のまちづくりについて話し合う。

- ・「道の駅」の様子とその目的
- ・昔の行事を復活する取り組み
- ・東峰村を紹介する番組づくりとその発信
- ・地場産業と自然環境という特色を生かしたまちづくり

●小石原焼の工程を示す写真と解説

□可能ならば実際に焼き物づくりを体験し、そこでの疑問を話し合わせるようにしたい。<小石原焼の作り方について、意欲的に調べようとしている>【関・意・態】

●陶土づくりの写真と解説，作り手の話

□陶土づくりを取り上げながら、化粧土や釉薬といった原材料が地域の自然素材であることに気づかせる。

□小石原焼の作り手が技術を高める努力と時代にあったデザイン等の工夫をしていることについて理解させる。

<小石原焼が今も多くの人に好まれる理由について、自分の考えを記述している>

【思・判・表】

●東峰村の航空写真と地形図，棚田の写真と農家・農協の人の話

□写真や地図を使い，東峰村の人々が，地形や地質を生かした農業を行い，生活していることに気づかせる。

<東峰村の人々が山の斜面を生かした農業をしていることを理解している>【知・理】

●「道の駅」の写真や事業の解説，村役場の人や番組づくりに取り組む人の話

□調べた東峰村の人々の取り組みとそこに込められた思いを発表し合い，まちづくりについて整理する。

<これまでの学習を振り返り，東峰村の人々がめざしているまちづくりについて，自分の考えをノートなどにまとめている>【思・判・表】

2 クリークを生かしたまちづくり（7時間）

小単元の目標 クリークと古い街並みで知られた柳川市に関心をもち、地域の特性を生かしたクリークの仕組み・機能及びその荒廃と復活の様子や、市の人々の仕事と生活の様子を地図などの資料で調べることを通して、地域資源の保護・活用の面から柳川市の特色について考え、他地域とのかかわりや市の特色を生かしたまちづくりについて理解することができるようにする。

過程	ねらい	主な学習活動と内容	□留意点 ●学習資料 < >評価
つかむ	<p>○東峰村との景観の違いから柳川市に関心をもち、土地の様子を調べて、学習問題をつくる。 (1)</p>	<p>○写真や地図から柳川市の土地の特徴を読み取り、学習問題をつくる。 ・柳川市は、東峰村に比べると土地が低くて平らになっている ・柳川市は海に面しており、多くの川がある ・柳川市の人たちは、まちづくりのためにどんな工夫をしているのだろうか</p>	<p>□東峰村との景観の違いを視点として、どんこ船や美しい街並みで知られた平地の柳川市に着目させる。 ●柳川市の航空写真、東峰村も入った鳥瞰図・地形図 □写真や鳥瞰図などから、有明海に面した柳川市が低くて平らな土地であることに気づかせる。 <柳川市の土地の様子から、まちづくりについて自ら疑問に思ったことを発表している> 【思・判・表】</p>
調べる	<p>○地図などから柳川市では米づくりが盛んなことやクリークがまち中に広がっていることを読み取り、クリークについて関心をもつ。 (1)</p>	<p>○地図やグラフで、柳川市の土地の使い方とクリークの広がりを調べる。 ・柳川市には水田が多く、米づくりが盛んなようだ ・柳川市にはクリークと呼ばれる水路が、網の目のようにまち全体に広がっている</p>	<p>●航空写真、クリークの入った地図、土地利用のグラフ □写真や地図から、柳川市では、平らな土地を生かした米づくりが盛んなことや、クリークが網の目のように広がっていることに気づかせる。 □柳川市の特徴であるクリークに興味を持たせるようにする。</p>
	<p>○クリークの成り立ちや働きがわかり、柳川市の人々の生活とクリークとのかかわりについて考える。 (1)</p>	<p>○資料を使ってクリークの成り立ちや働きについて調べ、柳川市の人々の生活とクリークのかかわりについて話し合う。 ・クリークができたわけ ・クリークの仕組みと役割 ・洪水や水不足から生活を守るクリーク</p>	<p>●クリークの成り立ちを示す図、クリークの仕組みを示す図 □柳川市で水害が起こりやすいことに気づかせるに当たっては、地図や写真で川との関係や堤防の位置を確認させる。 □クリークがなくてはならないものであったことに気づかせる。</p>

○汚れて埋め立てられることになったクリークが再生される様子やクリークに対する柳川市の人々の気持ち

(1)

○柳川市の農業、水産業、観光業とクリークとの密接なかわり

(2)

○柳川市をよりよくするために、市の人々が地域の特色を生かした取り組みをしていることに気づき、まちづくりの進め方について考える。

(1)

○クリークの荒廃した様子や復活への取り組みを調べて、柳川市の人々のクリーク再生にかける思いを予想する。

- ・まちや生活の変化によるクリークの変化
- ・クリークの復活の様子
- ・クリークに対する柳川市の人々の気持ち

○柳川市の農業、水産業、観光業について調べ、クリークが柳川市の人々の仕事とどのように結びついているのか話し合う。

- ・農業：農業用水、水害予防
- ・水産業：栄養供給、汚濁原因
- ・観光業：観光資源、汚濁防止
- ・仕事はクリークと密接に関わっている

○「水郷柳川夏の水まつり」について調べ、柳川市のまちづくりについて話し合う。

- ・「水郷柳川夏の水まつり」の様子とその目的
- ・観光客など他の地域の人々へのメッセージ
- ・自然環境と結びついたクリークや街並みの特色を生かしたまちづくり

●クリークを汚さない仕組みを示した図、クリークの変化に関する話、クリーク清掃の写真

□クリークの荒廃から再生へ様子を調べたあと、どうして柳川市の人々がクリークの清掃と維持に取り組んだのかを予想させる。

＜クリークは、生活が変わっても柳川市や人々にとってなくてはならないものであることを理解している＞

【知・理】

●農業・海苔養殖・観光（川下り）の写真と各仕事に携わる人々の話

□農業や海苔養殖、観光業の現状と仕事の内容を調べるだけでなく、各産業とクリークがどのように結びついているのかを調べさせる。

□前時の予想について確認し、クリークと仕事とのかかわりをまとめる。

＜クリークは柳川市の様々な仕事とも深く関わっていることを理解している＞

【知・理】

●「水郷柳川夏の水まつり」の写真や解説

□調べた「水郷柳川夏の水まつり」への人々の取り組みと、そこに込められた思いを発表し合い、まちづくりについて整理する。

＜これまでの学習を振り返り、柳川市の人々がめざしているまちづくりについて、自分の考えを発表したりノートにまとめたりしている＞

【思・判・表】